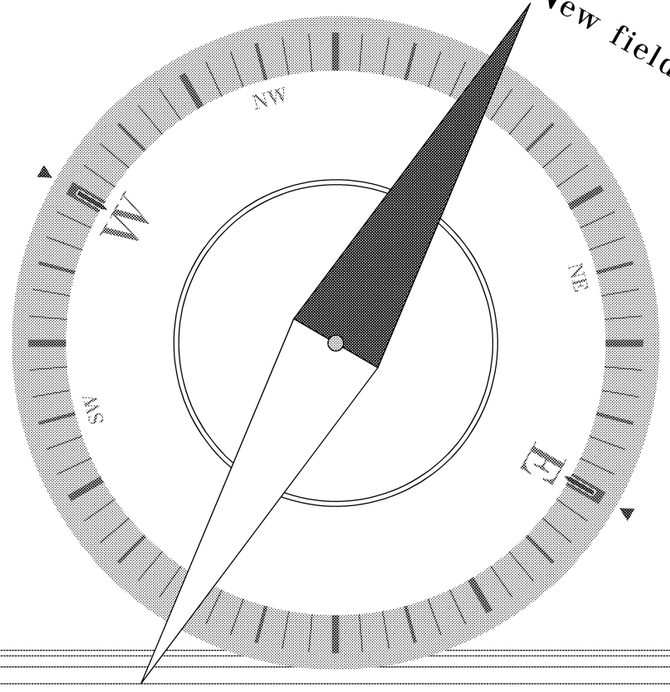
針路は、
「安全・安心な生活環境のために」

New field

不動テトラグループは、
独自の技術と創意工夫で、
豊かで安全な環境づくりに
貢献しています。

その新しいフィールドは、
海の底から山の上まで拡がり
災害に強い国土づくり、
安心して暮らせる社会基盤の整備に
お応えします。



FUDO TETRA
株式会社 不動テトラ
本 社　〒103-0016　東京都中央区日本橋小網町7-2　TEL.(03)5644-8500
http://www.fudotetra.co.jp

FUJITA'S FUTURE

未来は大きな可能性に満ちた希望の世界です。過去は今を創り、
今は未来を創る原動力。フジタは、築き上げた総合力をもって、
次の時代に柔軟に対応していきます。建設を基盤とした豊かな
環境づくりへ。フジタは、いま、人と地域と自然がひとつにつながる、
"高"環境づくりを目指します。子供たちとその子供たちが
のびのびと生きていける快適な環境を創造するために。

たゆまず、未来をつくる。フジタ

安全な作業のために職場環境改善

建設産業

建設産業は屋外での重労働が多く、真夏の炎天下での作業は避けられない。こうした作業環境では熱中症に注意が必要だ。熱中症は水分と塩分（ナトリウム）の消耗により脱水症状を引き起こし、悪化すると死に至ることもある。建設作業現場での熱中症による死亡者も出ている。ただし初期症状を見抜き、対処すれば治らない病気ではない。管理監督者は作業員の顔色やしぐさ、作業環境に注意を払い、作業員自身は熱中症の知識を持って体調管理し、安全な作業に努めなければならない。

熱中症のサインに注意

気象庁の統計によると、2013年8月の東日本、西日本の平均気温は平年の地域平均を1・3度C上回り、日最高気温の高い記録を更新した地点は143、日最低気温の高い記録を更新した地点は93だった。こうした気温の上昇は「ヒートアイランド現象」が要因と考えられる。同現象は草地や森林の減少、アスファルト面から大気への加熱の増加、高層化する建築物による放射冷却の妨げ、エネルギー消費に伴う人工排熱が影響と考えられ、熱中症などの健康被害を拡大する危険をはらむ。

熱中症は暑さによる発汗で体内の水分と塩分のバランスが崩れ、体内の調整機能の破たんなどによって発症する病気。熱中症はめまいや失神、筋肉の痛み、頭痛、吐き気、意識障害、全身けいれんなどの症状が現れる。特に、腿や腕などの太い筋肉がけいれんを起こしやすく、軽いけいれんは熱中症のサイン。こうしたサインが出たら木陰や屋内に入って脇や首といった太い血管が流れる場所に氷や保冷剤を当て、全身を冷やさなければならない。また、定期的に水分・塩分を摂取することが熱中症予防につながる。

中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センターの清水英佑所長は「熱中症は手を打てば治る病気。ただ重度になってからでは死に至ることもある。作業員自身はもちろん、管理監督者も作業員のサインを見逃してはならない」と注意を促す。

消防庁によると、7月の熱中症による救急搬送は6月の4倍の1万8407人で、31人が死亡した。清水所長は「熱中症は7、8月が多い。特に、本格的な夏の暑さを迎えた初日に増加する。暑さに慣れていないため、うまく汗が分泌できず放熱しにくい状況」と指摘する。

簡易の屋根や細霧冷房システム導入

建設業は炎天下の高温多湿環境下での作業が避けられないため、職場における熱中症による死亡災害の中でも最も多い。10―13年の4年間で44人もの尊い命が失われた。

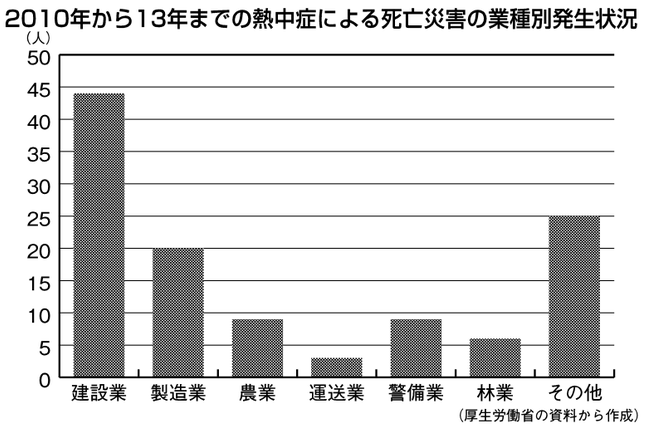
直射日光を防ぐ簡易の屋根や細霧冷房システム、通気性の良い服装・帽子・ヘルメットの導入や、湿度・熱環境・気温を取り入れた暑さ指数（WBGT）の測定など職場環境を整えることで作業員の健康は守られる。

また、朝礼で管理監督者が作業員の顔色や生活状況を確認し、体調が悪い作業員には特に注意を払う必要がある。作業員自身も足のもつれや体の平衡感覚に異常が見られた際、自己判断し作業を中断するなど、自覚症状とともに対処法を身に付けなければならない。

熱中症による血液中の水分が減った脱水症は脳血栓や脳梗塞、心筋梗塞の引き金になる。特に、体温を発散しづらい肥満体形や高血圧、糖尿病患者への注意は必要だ。

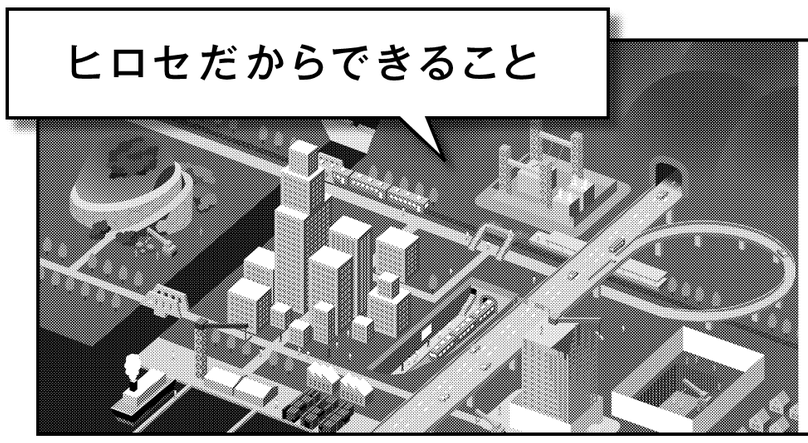
「管理監督者は日ごろから作業員の生活に注意を払い、寝不足や下痢、二日酔いなど体調管理ができていない作業員には生活改善を促す」（同）ことも安全な職場環境を維持するために取り組むべき対策である。

2010年から13年までの熱中症による死亡災害の業種別発生状況



（厚生労働省の資料から作成）

ヒロセだからできること



街で、山で、川で、海で、
社会基盤を整備するあらゆる現場で求められる
より安全な作業環境、より効率的な施工方法、
より環境に配慮した技術。そして、人と自然が
共に生きる快適な社会を創ること。
そんな課題に応えるために
ヒロセだからできることがあります。

hirose 株式会社
www.hirose-net.com

こころを刻む。

私たちの暮らしている社会は
少しずつ変化し、成長しています。
若築建設は、しっかりと今を見つめながら、
人のこころを刻む企業として、
一歩一歩着実に歩み続けます。

WAKACHIKU
豊かな未来へ 技術のメッセージ
若築建設
〒153-0064　東京都目黒区下目黒2-23-18
TEL. 03-3492-0271
FAX. 03-3490-1019

三井住友建設
http://www.smcon.co.jp

技術がアートになる日

私たちを魅了してやまない、ナスカの地上絵。
それは何千年も前に、私たちの祖先がつくった
建造物といわれています。
三井住友建設は、これまでに培った技術を基に、
人々に愛されるまちづくりに貢献したいと考えています。